

第2次奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画

令和元年度 実施計画シート  
(協働事業)

No.	1	事業名	自治連合会等活動推進					
部名	市民部		課名	地域づくり推進課・各出張所・行政センター				
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活		① 地域活動の推進 <small>地域住民に対し、奈良市自治連合会と協働して、防災防犯、高齢者支援、子どもの見守りといった様々な地域コミュニティ活動への参加を促し、住民の地域コミュニティへの帰属意識向上に努めます。</small>			
	基本施策	1-01	地域コミュニティ、交流(地域間交流)					
	施策	1-01-01	地域コミュニティの活性化					
相手方の名称	奈良市自治連合会、各地区自治連合会		協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	通年		事業開始年度	-				
令和元年度事業費	予算額	14,584		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	地域の対話促進及び地域コミュニティの推進に必要な取組を行う奈良市自治連合会及び各地区自治連合会へ交付金を交付するとともに、各地区の担当職員である「地域づくりコーディネーター」が地域活動の支援を行う。							
目標指標	指標名	自治会加入率						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	78.0	79.0	80.0	72.0	72.0
実績値	75.1	74.1	72.9					
令和元年度実施計画	これまでに引き続き、奈良市自治連合会及び各地区自治連合会へ交付金を交付するとともに、各地域を担当する「地域づくりコーディネーター」を配置し、地区自治連合会を中心とした地域活動の取組みや、地域の各種団体が連携・協働する「地域自治協議会」の設立を支援する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも言えない できなかつた	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	2	事業名	ボランティアセンターの運営					
部名	市民部		課名	地域づくり推進課				
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活		展開方向 ① ボランティア・NPO活動の活性化 <small>ボランティア活動の拠点施設として、市民の活動を支援するための奈良市ボランティアセンターの充実を図るとともに、奈良市ボランティアインフォメーションセンターにおいて、より幅広い公益活動に関するきつかけづくりを推進します。</small>			
	基本施策	1-01	地域コミュニティ、交流(地域間交流)					
	施策	1-01-02	市民交流の活性化					
相手方の名称	(社福)奈良市社会福祉協議会		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	14,090		決算額	(単位:千円)			
事業の概要・目的	市民の地域福祉活動への積極的な参加促進を図るとともに、さまざまな分野で広がりをみせるボランティア活動を支援し、やさしさとふれあいのある住みよい奈良のまちづくりを目指す。							
目標指標	指標名	利用人数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	21,400	21,675	21,950	22,225	22,500
実績値	19,904	19,893						
令和元年度実施計画	ホームページや、ボラセンだよりを通してセンターと活動団体の紹介を行い、気軽にセンターを利用してもらう。ボランティアインフォメーションセンターとの連携により、相互に利用を促す。また、利用者アンケートを実施し、今後の取り組みを検討していく。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかけた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					
評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	3	事業名	にぎわいのあるまちづくり事業					
部名	総務部		課名	総務課保健所・教育総合センター管理室及びセンター内全課				
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活		展開方向 ① ボランティア・NPO活動の活性化 <small>協働によるまちづくりを推進するために、市民や自治会などの市民公益活動団体と行政との役割分担を構築し市民相互の活動を支援します。</small>			
	基本施策	1-01	地域コミュニティ、交流(地域間交流)					
	施策	1-01-02	市民交流の活性化					
相手方の名称	JR奈良駅西地区の自治会		協働事業の実施手法	実行委員会・協議会				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成23年度				
令和元年度事業費	予算額	370		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	地域住民と市職員が協働して「にぎわいのあるまちづくり事業」を実施する。この事業は、市場やコンサート、セミナー等などの集客イベントを実施し多くの市民の方に、はぐくみセンターを知っていただき、有効利用していただくこと、地域の活性化を図ること、JR奈良駅西のまちづくりに寄与することを目的とする。							
目標指標	指標名	来館者数の増加						
	単位	千人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	200	210	220	220	220
実績値	204	219	222					
令和元年度実施計画	①JR奈良駅西まちづくり運営協議会(地域住民と職員)において、年間事業計画を決定する。 ②にぎわいのあるまちづくり実行委員会(地域住民と職員)により事業を行う。 コンサート6回、市場3回、健康講座1回、歴史講座1回、まちづくりセミナー1回、大文字見学会、山焼き見学会 ③実行委員の意見や来場者のアンケートにより事業の評価を行い、来年度の事業計画に繋げる。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しできた どちらとも言えない できなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						/
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						/
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	4	事業名	男女共同参画活動団体協働事業					
部名	市民部		課名	男女共同参画課				
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活		展開方向 ① あらゆる分野の政策・方針の決定及び実施の場への男女共同参画の推進 男女共同参画の視点を持ち、あらゆる分野で活躍できる女性の人材の育成と活用に努めます。			
	基本施策	1-02	男女共同参画					
	施策	1-02-01	男女共同参画社会の実現					
相手方の名称	女性団体等		協働事業の実施手法	共催				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成17年度				
令和元年度事業費	予算額	1,135		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	男女が互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる社会の実現を市民参画によりめざす。							
目標指標	指標名	「市民講座」の受講者アンケートによる満足度を平成32年度を目標に85%にまで上げる。						
	単位	率(満足度)	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	92	70	75	80	85
実績値	61	66	71					
令和元年度実施計画	市民団体及び市民グループ企画の市民感覚から発した「市民講座」とすることで市民のニーズに合った講座を開催し、チラシ・ポスター作成、しみんだよりやホームページへの掲載、マスコミ等への広報を行うことで講座の周知を図る。また、参加率やアンケート結果を踏まえ、次回へとつなげる。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					
評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	5	事業名	地域人権教育支援事業					
部名	市民部		課名	人権政策課				
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活		展開方向 ① 人権教育の推進 <small>地域における人権教育の推進を図るため、奈良市人権教育推進協議会と協働・連携します。そして、地域活動としての人権学習を通して人権問題への認識を深めることにより、全市レベルでの市民意識向上に努めます。</small>			
	基本施策	1-03	人権・平和					
	施策	1-03-01	人権と平和の尊重					
相手方の名称	奈良市人権教育推進協議会		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	昭和48年度				
令和元年度事業費	予算額	1,458		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	行政と市民との中間団体である「奈良市人権教育推進協議会」と協働し、地域における人権教育の推進を図り、「奈良市人権文化のまちづくり条例」の具体化を図る。							
目標指標	指標名	活動地区数の増						
	単位	地区	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	40	40	40	40	40
実績値	33	32	32					
令和元年度実施計画	運営団体のあり方や地区別研修会、指導者講座、人権講座等の事業実施についての検討を進め、より自主的な活動を行うよう、また、参加者が増えるよう双方協議しながら改善を図る。また参加型の人権講座である「なるほど！人権講座」を引き続き実施し、地域の中で人権啓発のリーダー的存在になれる人材の育成を目指す。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少 どちらとも あまり でき し ちらとも すぎ できなかった できた 言えない なかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
	評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	6	事業名	地域で決める学校予算事業(地域学校協働活動本部)					
部名	教育部		課名	地域教育課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	①	教育内容の充実	
	基本施策	2-01	学校教育			地域教育協議会の強みを生かし、地域と連携した教育活動支援を推進します。		
	施策	2-01-01	特色のある教育の推進					
相手方の名称	地域教育協議会			協働事業の実施手法	委託			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成20年度			
令和元年度事業費	予算額	68,835		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	中学校区を単位として、地域全体で学校を支援し、子どもたちを守り育てる体制をつくり、子どもたちの教育活動の充実と地域の教育力の再生、地域コミュニティの活性化を図る。地域と学校が連携・協働し、中学校区で取組む事業と、各学校園で特色のある教育活動を実施するために取組む事業を全中学校区で実施する。							
目標指標	指標名	会計担当者設置校区数						
	単位	校区	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	13	15	17	19	21
実績値	12	12	13					
令和元年度実施計画	これまで引き続き、各中学校区地域教育協議会に事業委託を行うとともに、研修会の開催、意見交換・情報共有の場の設置等、地域教育協議会と学校が「目指す子ども像」を共有した上で、連携・協働しながら地域全体で子どもを守り育てる体制づくりを支援する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点									

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	7	事業名	教育センター学習事業					
部名	教育部		課名	教育支援・相談課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向			
	基本施策	2-01	学校教育					
	施策	2-01-01	特色ある教育の推進					
①	教育内容の充実							
相手方の名称	ボランティア団体・NPO法人・民間研究大会		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成23年度				
令和元年度事業費	予算額	15,381		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	教育センター9階は、キッズ学びのフロアとして、プラネタリウム等の設備を活用し、ものづくり体験教室や理科・科学実験教室、天文教室等を開催することで、子どもたちの豊かな学びを保障し、創造性や探究心を育て、奈良で学んだことを誇らしげに語り、たくましく生きていこうとする子どもを育成する。 平日には学校園を対象としたセンター学習を、休日には親子等を対象とした「キッズホリデークラブ」を実施する。							
目標指標	指標名	民間協力団体数の数(学校、営利企業を除く)						
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値			9	10	11
実績値			8					
令和元年度実施計画	「わくわくセンター学習」では、学習指導要領の改訂に合わせてプログラミング的思考を育成できる「ロボット教室」や、「キッズホリデークラブ」では、未就学児の参加が多いため親子で体験・制作できる実験や工作の講座を充実させていく。また、ボランティア団体、NPO法人、民間研究団体の協力も得ながら講座内容を充実させていく。市民に向けた広報活動として、ポスターやチラシ、HP、SNSなどを活用し、利用者の利便性を向上させる。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 ← ← → → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					
評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		



No.	8	事業名	学校規模適正化検討協議会との協議					
部名	教育部		課名	教育政策課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	⑤ 施設配置の適正化及び施設の長寿命化の検討 小学校・中学校の規模適正化を実施します。		
	基本施策	2-01	学校教育					
	施策	2-01-03	義務教育の充実					
相手方の名称	保護者・地域代表・学校関係者		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度				
令和元年度事業費	予算額		決算額		(単位：千円)			
事業の概要・目的	奈良市学校規模適正化実施方針及び中学校区別実施計画等に基づき、対象地域において市立小・中学校の規模適正化の推進に向け協議し、地域性等を考慮した個性や特色ある学校づくりをめざす。							
目標指標	指標名	規模適正化を必要とする小・中学校						
	単位	校	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	7	4	4	4	4
実績値	7	4	4					
令和元年度実施計画	子どもたちの教育環境をより良いものにするため、保護者、地域住民の声をしっかりと聞きながら、統合再編に向けて取組を進める必要がある。平城西中学校区については、令和3年4月開校を目標に保護者・地域住民・学校関係者で構成する「検討協議会」を設置し、事業を進め、若草中学校区については、子どもたちの教育環境をより良いものにするため、学校規模適正化の取組を進める。							
今後の方針		拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	9	事業名	放課後子ども教室推進事業					
部名	教育部		課名	地域教育課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	②	地域の教育力の充実	
	基本施策	2-02	青少年の健全育成			各小学校区においても、学校・家庭・地域が連携・協働し、子どもたちの安全・安心な居場所を設け、地域ぐるみで子どもを育てる仕組みづくりを進めます。		
	施策	2-02-01	青少年の健全育成					
相手方の名称	各小学校運営委員会		協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成19年度				
令和元年度事業費	予算額	20,202		決算額			(単位：千円)	
事業の概要・目的	子どもたちが地域社会の中で、心豊かに健やかに育まれる環境づくりを推進するため、放課後等に小学校の余裕教室等を活用し、地域の方々の参画を得て活動を進める。勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を、全小学校区で実施する。							
目標指標	指標名	放課後子ども教室の年間実施日数						
	単位	日/校	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	33	34	34	35	35
実績値	31	31	31					
令和元年度実施計画	これまで引き続き、各小学校運営委員会に事業委託を行うとともに、研修会の開催、意見交換・情報共有の場の設定等、各運営委員会、小学校、バンビーホームと連携・協働しながら子どもたちに多様な教育活動を提供するための支援をする。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかけた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点									

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	10	事業名	青少年野外体験施設の運営管理					
部名	教育部		課名	地域教育課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	③ 青少年健全育成活動の推進 青少年が健やかに成長できる体験の場所や機会を提供します。		
	基本施策	2-02	青少年の健全育成					
	施策	2-02-01	青少年の健全育成					
相手方の名称	①奈良市黒髪山キャンプフィールド運営協議会 ②特定非営利活動法人 奈良地域の学び推進機構		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	①平成18年度(指定管理者制度導入年度) ②平成21年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	29,113		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	自然環境の中での野外活動、レクリエーション等を通じて青少年の心身の健全な育成を図ることを目指す。							
目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	12,040	12,080	12,120	12,160	12,200
実績値	12,279	12,497	11,888					
令和元年度実施計画	指定管理者と協議・連携し、快適な施設と魅力的な事業の提供に努めるとともに、広報の在り方について創意工夫し、利用者数の増加を目指す。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	11	事業名	公民館の運営管理					
部名	教育部		課名	地域教育課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 ① 生涯学習活動の推進 <small>地域の課題解決に向けた学習活動を含め、市民の多様な学習に対応できる幅広い内容や人材の確保、機会の充実に努めます。</small>			
	基本施策	2-03	生涯学習					
	施策	2-03-01	生涯学習の推進					
相手方の名称	公益財団法人奈良市生涯学習財団		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	603,400	決算額	(単位：千円)				
事業の概要・目的	いつでも、どこでも、だれでも学べる学習環境の醸成と整備を促進するとともに、学びの成果が活力ある地域づくりにつながる生涯学習活動を推進する。また、市民の生涯学習活動の拠点となる公民館を管理し、市民が健康かつ豊かな生活を送ることができる機会を提供する。							
目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	610,000	620,000	630,000	640,000	650,000
実績値	591,696	610,304	557,845					
令和元年度実施計画	公民館の事業展開及び施設運営について、市の方針を共有し、協議を行いながら、市民の多様なニーズに応える各種事業を計画・提供するとともに公民館の管理運営を行う。また、地域課題を抽出し解決に向けた取組を行うため、地域とのつながりを重視し、情報共有に努めると共に若年層の学習活動支援を推進する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点									

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	12	事業名	おはなし会					
部名	教育部		課名	中央図書館				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 ② 子どもの読書活動の推進 子どもの読書活動に関わる環境の整備・充実に努めます。			
	基本施策	2-03	生涯学習					
	施策	2-03-02	図書館の充実					
相手方の名称	ボランティア		協働事業の実施手法	共催				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度				
令和元年度事業費	予算額	590		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	図書館において「おはなし会」を開催し、絵本の読み聞かせ・おはなし・パネルシアター・人形劇などを通して、物語などのすばらしさを伝え、子どもの想像力と豊かな感性を育むとともに、読書への興味へと導いて、子どもの健全育成を図る。							
目標指標	指標名	参加人数						
	単位	参加人数	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
実績値	1,590	1,446	1,053					
令和元年度実施計画	図書館において「おはなし会」を開催し、絵本の読み聞かせ・おはなし・パネルシアター・人形劇などを通して、物語などのすばらしさを伝え、子どもの想像力と豊かな感性を育むとともに、読書への興味へと導いて、子どもの健全育成を図る。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。		
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。		/
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。		/
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。		
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。		
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。		
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。		
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。		
評価点				

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	13	事業名	市民考古サポーター活動事業					
部名	教育部		課名	文化財課埋蔵文化財調査センター				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	①	文化財の保護・啓発	
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承			文化財保護に関わるボランティア・市民活動などとの連携を促進する。		
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用					
相手方の名称	寧楽考古楽倶楽部			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成21年度			
令和元年度事業費	予算額	72		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	寧楽考古楽倶楽部は、平成20年度「市民考古サポーター養成講座」の修了者が組織した団体で、発掘調査・遺物整理・展示公開・講演・説明会等、埋蔵文化財調査センターが行う考古学的調査研究、保存活用事業に参加支援し、考古学を自由な立場で楽しみながら学び、その活動を通じ文化財保護へ寄与してもらおう。							
目標指標	指標名	市民考古サポーターの人員維持						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	85	85	100	102	104
実績値	93	99	106					
令和元年度実施計画	市の事業計画に対応する形で、2ヶ月毎に活動計画を策定し、遺物整理・展示公開・講演会・市民考古学講座・職場体験学習・発掘調査体験学習を実行する。その後各事業ごとに協働内容を確認し、意見・要望を整理したうえで、倶楽部の役員会において担当職員と役員で今後の方向性等を協議する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	14	事業名	文化財講座					
部名	教育部		課名	文化財課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 ① 文化財の保護・啓発 <small>市民が奈良の歴史文化を知る機会となる文化財活用普及啓発事業の充実を図ります。</small>			
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承					
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用					
相手方の名称	文化財関連団体、公益財団法人奈良市生涯学習財団(都跡公民館)等		協働事業の実施手法	共催				
実施の時期	年2回		事業開始年度	共催での実施は平成27年度から				
令和元年度事業費	予算額	191		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	市民に広く奈良の文化財を周知し、理解と関心を深めてもらい、保護や活用に積極的に関わる契機として、体験学習・見学等を組み合わせた講座を開催する。							
目標指標	指標名	協働での実施回数						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	3	2	2	2	2
実績値	3	2	3					
令和元年度実施計画	従来実施している当該事業の一部を協働で行う。赤膚山元窯保存会との協働では、平成29年度に修理が完了した大型登り窯(登録有形文化財)を活用し、登り窯の見学や解説、窯元の仕事体験を含む講座を実施する。都跡公民館との協働では、公民館に隣接する旧田中家住宅(市指定文化財)を活用し、かまどでの炊飯等の昔の暮らし体験を含む講座を実施する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかけた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
	評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	15	事業名	史料保存館展示関連見学会					
部名	教育部		課名	文化財課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	①	文化財の保護と啓発	
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承			市民が奈良の歴史文化を知る機会となる文化財活用普及事業の充実に図ります。		
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用					
相手方の名称	NPO法人なら・観光ボランティアガイドの会「朱雀」		協働事業の実施手法	共催				
実施の時期	年4回		事業開始年度	平成28年度				
令和元年度事業費	予算額	2,400		決算額			(単位：千円)	
事業の概要・目的	史料保存館の展示テーマに合わせた市内の現地見学と、史料保存館の展示見学を行い、奈良の歴史文化に対する知識を深め、文化財保護の推進を図る。							
目標指標	指標名	実施回数						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1	4	4	4	4
実績値	1	4	4					
令和元年度実施計画	ホームページやしみんだより、ツイッターに解説付きガイドツアー募集の記事を掲載し、NPO法人なら・観光ボランティアガイドの会「朱雀」の案内で、史料保存館の企画展示及び特別陳列 ならまち歳時記展にゆかりの地を歩く見学会を行う。あわせて同館職員の解説により史料保存館の展示を見学してもらう。また、参加者アンケートを基に今後の事業内容を検討する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかけた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点									

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		



No.	16	事業名	上深川歴史民俗資料館(指定管理)					
部名	教育部		課名	文化財課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 ③ 文化財保存・展示施設の整備 <small>史料保存館など文化財保存公開施設の充実を図ります。</small>			
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承					
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用					
相手方の名称	奈良市上深川町自治会		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	昭和53年度				
令和元年度事業費	予算額	206		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	地域の文化財保存公開施設として適切に管理を行い、特に当該地域の特色ある文化財である重要無形民俗文化財「題目立」の保存公開に寄与する運営を行う。							
目標指標	指標名	重要無形民俗文化財「題目立」の保存公開、施設管理に要する日数						
	単位	日	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	29	28	28	28	28
実績値	49	50	50					
令和元年度実施計画	「題目立」の合同練習、現地公開のために会館する。また見学希望者への公開のために随時開館する。そのほか施設維持管理、収蔵資料の保存等のために毎月定期的に点検等を行う。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	17	事業名	ならまちわらべうたフェスタ					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 ③ 伝統文化の普及と継承 <small>伝統文化の普及のために、市民が伝統文化に触れる機会を提供する等の支援を行います。</small>			
	基本施策	2-05	文化振興					
	施策	2-05-01	文化の振興					
相手方の名称	文化団体・NPO・財団等		協働事業の実施手法	実行委員会・協議会				
実施の時期	10月		事業開始年度	平成5年度				
令和元年度事業費	予算額	1,732		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	わらべうたは子どもたちによって遊びの中で伝えられ、それぞれの時代の子どもの様子や人々の文化が表現されている。このわらべうたを貴重な無形文化遺産と位置づけ広く継承することと、「ならまち」の地域活性化と文化振興を目的にわらべうたをベースとしたおまつりを開催する。							
目標指標	指標名	ならまちわらべうたフェスタ協力団体数の増加						
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	31	32	40	45	50
実績値	35	35	31					
令和元年度実施計画	例年同様のわらべうたフェスタを開催するとともに、開催地域の拡大(きたまちエリア)を目指し、さらに大きなイベントとする。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目			行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			
評価点					

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	18	事業名	奈良市西部会館市民ホール(学園前ホール)の運営					
部名	市民部		課名	文化振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	① 文化の発信と交流 市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。		
	基本施策	2-05	文化振興					
	施策	2-05-01	文化の振興					
相手方の名称	日本環境マネジメント株式会社		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	40,000	決算額	(単位:千円)				
事業の概要・目的	西部会館市民ホール(学園前ホール)の設置により、市民の連帯感の育成と文化の向上を図るとともに、ふれあい豊かな地域社会づくりをめざす。 指定期間:平成30年4月1日～平成35年3月31日 開館時間:午前9時から午後5時まで(ただし施設の利用は午後9時半まで) 休館日:月曜日、休日の翌日、12月28日から1月4日 西部会館市民ホールの業務内容:①施設の貸し出し、②文化振興を図るための自主事業(コンサート、講演、文化講座など)							
目標指標	指標名	来館者数の増加						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	40,000	38,000	38,130	38,481	38,862
実績値	37,381	35,848	40,967					
令和元年度実施計画	指定管理を行う日本環境マネジメント株式会社と活発な情報交換、報告、助言に努め、効果的な施設運営を行う。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 ← ← → → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重しううえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	19	事業名	北部会館市民文化ホールの運営					
部名	市民部		課名	文化振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	① 文化の発信と交流 市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。		
	基本施策	2-05	文化振興					
	施策	2-05-01	文化の振興					
相手方の名称	一般財団法人奈良市総合財団		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	32,200		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	北部会館市民文化ホールの設置により、市民の自主的な文化活動の促進、教養の向上及び健康の保持を図るとともに、市民の福祉の増進に資する。 指定期間：平成30年4月1日～平成35年3月31日 開館時間：午前9時から午後5時まで(ただし施設の利用は午後9時半まで) 休館日：月曜日、休日の翌日、12月28日から1月4日 北部会館市民文化ホールの業務内容：①施設の貸し出し、②文化振興を図るための自主事業(コンサート、講演など)							
目標指標	指標名	来館者数の増加						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	130,000	134,000	128,600	119,491	120,682
実績値	133,895	128,036	93,080					
令和元年度実施計画	指定管理を行う一般財団法人奈良市総合財団と活発な情報交換、報告、助言に努め、効果的な施設運営を行う。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
	評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	20	事業名	入江泰吉旧居の運営					
部名	市民部		課名	文化振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 ① 文化の発信と交流 市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。			
	基本施策	2-05	文化振興					
	施策	2-05-01	文化の振興					
相手方の名称	一般財団法人奈良市総合財団		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成26年度(開館年度)				
令和元年度事業費	予算額	10,566		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	<p>入江泰吉旧居の設置により、奈良を愛した写真家入江泰吉の旧居を保存活用し、その業績の顕彰を図り、もって奈良を愛する心を育むとともに、文化の向上に資する。</p> <p>指定期間：平成31年4月1日～令和6年3月31日</p> <p>開館時間：午前9時半から午後5時まで(ただし入館は午後4時半まで)</p> <p>休館日：月曜日、休日の翌日</p> <p>入江泰吉旧居の業務内容：①旧居の一般公開、②入江泰吉及び写真に関する事業の開催</p>							
目標指標	指標名	来館者数の増加						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値			6,100	6,868	6,930
実績値	7,033	5,923	7,387					
令和元年度実施計画	指定管理を行う一般財団法人奈良市総合財団と活発な情報交換、報告、助言に努め、効果的な施設運営を行う。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価			
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。								
	5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			
	←	←	→	→	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					
	←	←	→	→	→	自主性尊重	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			
							(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			
	←	←	→	→	→	自立化	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			
							目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。		
	←	←	→	→	→	相互補完	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。		
							公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。		
←	←	→	→	→	相互変革	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			
						期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			
					評価点					

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	21	事業名	奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」					
部名	市民活動部		課名	文化振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 ④ 「東アジア文化都市」事業主旨に基づく施策の実践 文化庁との共催事業である「東アジア文化都市」事業をはじめ、文化でまちを豊かにする施策を推進します。			
	基本施策	2-05	文化振興					
	施策	2-05-01	文化の振興					
相手方の名称	奈良市アートプロジェクト実行委員会		協働事業の実施手法	実行委員会・協議会				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成29年度				
令和元年度事業費	予算額	11,731		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	「東アジア文化都市2016奈良市」の成果を引き継ぐため、平成28年12月に「奈良市アートプロジェクト実行委員会」を立ち上げ、社会課題をアートによって掘り下げ、新たな価値につなげていくための取り組みを進めることになりました。							
目標指標	指標名	事業満足度(大変良いと良いの合計)						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値		80	80	80	80
実績値		88	87					
令和元年度実施計画	奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」事業を進めるにあたって、実行委員会と充分に協議しながら事業を遂行する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しできた どちらとも言えない できなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					
評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	22	事業名	奈良市都祁交流センターの運営					
部名	市民部		課名	都祁行政センター地域振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 ① 文化の発信と交流 <small>市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。</small>			
	基本施策	2-05	文化振興					
	施策	2-05-01	文化の振興					
相手方の名称	一般財団法人 奈良市総合財団		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	30,100		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	市民の文化振興と福祉の増進を図るとともに、地域間・世代間交流を促進するための文化活動の拠点となる施設の管理を行う。							
目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	16,000	18,000	18,100	18,200	18,300
実績値	20,456	19,484	19,521					
令和元年度実施計画	指定管理者と情報共有や十分な協議を行いながら、自主事業の充実を図り、市民に良質なサービスを提供できるよう支援を行う。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。		
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。		
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。		
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。		
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。		
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。		
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。		
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。		
評価点				

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	23	事業名	奈良市都祁生涯スポーツセンターコート等4施設の運営					
部名	市民部		課名	都祁行政センター地域振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向			
	基本施策	2-06	スポーツ振興					
	施策	2-06-01	スポーツの振興					
相手方の名称	一般財団法人 奈良市総合財団		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成22年度(8月供用開始)				
令和元年度事業費	予算額	9,936		決算額	(単位:千円)			
事業の概要・目的	健康で生きがいを持って暮らせるよう、生涯スポーツ宣言地域としてスポーツ・レクリエーションを通じて健康を維持・推進できるよう安全・安心なスポーツ施設の管理運営を行う。							
目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	19,500	20,000	20,500	21,000	21,500
実績値	15,711	17,731	17,268					
令和元年度実施計画	指定管理者と情報共有や十分な協議を行いながら、自主事業の充実を図り、市民に良質なサービスを提供できるよう支援していく。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		



No.	24	事業名	奈良市都祁体育館の運営					
部名	市民部		課名	都祁行政センター地域振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	② 生涯スポーツの推進		
	基本施策	2-06	スポーツ振興					
	施策	2-06-01	スポーツの振興					
相手方の名称	一般財団法人 奈良市総合財団		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年)				
令和元年度事業費	予算額	6,300		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	健康で生きがいを持って暮らせるよう、生涯スポーツ宣言地域としてスポーツ・レクリエーションを通じて健康を維持・推進できるよう安全・安心なスポーツ施設の管理運営を行う。							
目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	6,300	6,400	6,500	6,600	6,700
実績値	9,072	10,059	8,542					
令和元年度実施計画	指定管理者と情報共有や十分な協議を行いながら、自主事業の充実を図り、市民に良質なサービスを提供できるよう支援していく。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	25	事業名	地域福祉活動の支援事業					
部名	福祉部		課名	福祉政策課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ② 地域福祉活動の推進 <small>地域ごとに作成する地域福祉活動計画の策定を奈良市社会福祉協議会と協働して推進します。</small>			
	基本施策	3-01	地域福祉					
	施策	3-01-01	地域福祉の推進					
相手方の名称	地区社会福祉協議会		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成16年度				
令和元年度事業費	予算額	0		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	地域住民の立場から地域特性にあった「地域福祉活動計画」を作成し、住民の福祉活動への理解や参加を促し、住みよい生活環境づくりを実現する。現在46の地区社会福祉協議会があり、住民自治に根ざした地域住民と行政の対等なパートナーシップのもと、連携・協働による福祉のまちづくりをめざす。							
目標指標	指標名	地域福祉活動計画の策定地区数						
	単位	地区	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	20	26	32	38	46
実績値	20	25	31					
令和元年度実施計画	地区社協等の地域福祉に関する活動を行う方々が、共通の目標を持ち計画的に福祉のまちづくりに取り組んでいくことができるよう、地域福祉活動計画を策定する。未策定地区については、策定実施に向け積極的に働きかけをする。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
	評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	26	事業名	奈良市月ヶ瀬福祉センターの運営					
部名	福祉部		課名	長寿福祉課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	③	地域福祉推進体制の充実	
	基本施策	3-01	地域福祉			地域福祉推進に係る各種団体との連携を充実します。		
	施策	3-01-01	地域福祉の推進					
相手方の名称	(福)奈良市社会福祉協議会		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成22年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	29,300		決算額			(単位:千円)	
事業の概要・目的	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、市民の福祉の向上に資する。							
目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	25,500	25,600	25,700	25,800	25,900
実績値	25,248	24,254	22,206					
令和元年度実施計画	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、もって市民の福祉の向上に資するため、指定管理で、奈良市社会福祉協議会において福祉センターの施設運営を行う。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	27	事業名	奈良市都祁福祉センターの運営					
部名	福祉部		課名	長寿福祉課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	③	地域福祉推進体制の充実	
	基本施策	3-01	地域福祉			地域福祉推進に係る各種団体との連携を充実します。		
	施策	3-01-01	地域福祉の推進					
相手方の名称	(福)奈良市社会福祉協議会		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成22年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	33,100		決算額			(単位:千円)	
事業の概要・目的	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、市民の福祉の向上に資する。							
目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	30,100	30,200	30,300	30,400	30,500
実績値	23,412	25,950	25,844					
令和元年度実施計画	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、もって市民の福祉の向上に資するため、指定管理で、奈良市社会福祉協議会において福祉センターの施設運営を行う。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しできた どちらとも言えない できなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	28	事業名	奈良市子ども会議開催事業					
部名	子ども未来部		課名	子ども政策課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ② 子育て中の親子の居場所づくり 子育てに関する情報について広く周知し、子育て世代が奈良市に住みたい、住み続けたいと感じるまちづくりを目指します。			
	基本施策	3-02	子育て					
	施策	3-02-01	子育て支援の推進					
相手方の名称	市民(原則10～17歳の子ども)		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成27年度				
令和元年度事業費	予算額	774		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例」は、子どもたちが今を幸せに生きることができ、将来に夢と希望をもって成長していけるように、子ども参加によって大人とともにまちづくりを進めることを目的とする。そのためこの条例で規定している子どもが意見表明をし、参加する場として「奈良市子ども会議」を開催する。							
目標指標	指標名	奈良市子ども会議参加者の意見表明に対する満足度						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	80	85	90	90	95
実績値	79.6	80.1	79.7					
令和元年度実施計画	「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例」に基づき、5回目となる「奈良市子ども会議」を開催する。開催の詳細については、市の附属機関である「奈良市子ども・子育て会議」での審議を踏まえ、進めていく。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	29	事業名	子育て親子の集える場の提供					
部名	子ども未来部		課名	子ども育成課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ② 子育て中の親子の居場所づくり 子育て親子の交流の促進や育児相談等ができる地域子育て支援拠点で、地域支援活動の取組を積極的に行い、事業の充実を図ります。			
	基本施策	3-02	子育て					
	施策	3-02-01	子育て支援の推進					
相手方の名称	子育て支援団体(社会福祉法人、NPO法人等) 地区民生児童委員協議会・地区社会福祉協議会等		協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年または月1・2回		事業開始年度	平成5年度				
令和元年度事業費	予算額	129,294	決算額	(単位：千円)				
事業の概要・目的	子育て親子(おおむね0～3歳児とその親)を対象に、交流の場の提供と交流の促進、子育て等に関する相談及び援助の実施、地域の子育て関連情報の提供、子育て及び子育て支援に関する講習等の多様な子育て支援活動を実施する。							
目標指標	指標名	子育て中の親子の集える場の利用者数の増加						
	単位	人(年間延べ人数)	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	151,000	164,000	177,000	190,000	190,000
実績値	159,359	160,874	156,996					
令和元年度実施計画	子育て親子の集える場において、多様な子育て支援活動を実施し、地域全体で子どもの育ち・親の育ちを支援する。一部の地域子育て支援拠点においては、より利用者に寄り添った支援を実施する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					
評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	30	事業名	子育て支援アドバイザー					
部名	子ども未来部		課名	子ども育成課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 子育て親子にとって身近な場所で、子育てに関する相談や情報提供を行うとともに、関係機関と連携し、子育て支援の機能強化を図ります。			
	基本施策	3-02	子育て					
	施策	3-02-01	子育て支援の推進					
相手方の名称	個人ボランティア及び子育て支援団体		協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	随時		事業開始年度	平成18年度				
令和元年度事業費	予算額	1,224		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	<p>地域の子育て経験豊かな市民を「子育て支援アドバイザー」として登録し、子育て親子が集まる場所に派遣し、子育てに関する相談、助言、情報提供を行い、親の育児の負担感や不安感を軽減する。また、絵本の読み聞かせ、手遊び、親子体操等、子育て支援アドバイザーができる範囲で支援を行う。</p> <p>なお、事務の効率化及び事業内容の充実を図るため、子育て支援の経験豊富なスタッフが在籍する地域子育て支援拠点事業の実施団体に、事業を委託している。</p>							
目標指標	指標名	子育て支援アドバイザーの派遣回数						
	単位	回数	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	500	500	500	500	500
実績値	552	537	500					
令和元年度実施計画	<p>アドバイザーの活動内容を3区分に分類し、依頼元のニーズに沿った派遣を行うとともに、地域子育て支援拠点交流会等を実施し、アドバイザーと地域との交流・連携を深める。また、引き続きアドバイザー事業を地域子育て支援拠点事業の実施団体に委託し、事務の効率化と事業内容の充実を図る。</p>							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた   少しできた   どちらとも言えない   あまりできなかった   できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	31	事業名	ファミリー・サポート・センター事業					
部名	子ども未来部		課名	子ども育成課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	③	子どもの預り	
	基本施策	3-02	子育て			多様化する家庭環境に対応するため、保護者が一時的に子どもの養育が困難になった場合、安心して子どもを預けることができる子育て支援サービスの充実を図ります。		
	施策	3-02-01	子育て支援の推進					
相手方の名称	個人ボランティア及び市内で活動する法人		協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	随時		事業開始年度	平成16年度				
令和元年度事業費	予算額	14,158		決算額			(単位：千円)	
事業の概要・目的	「育児の援助を受けたい人」と「育児の援助を行いたい人」が依頼・援助・両方のいずれかの会員として登録し、児童の放課後の預かりや保育所等の送迎等で育児の援助が必要となったときに、会員相互の援助活動を行っている。 なお、事業の運営については、事務の効率化及び事業内容の充実を図るため、市内で活動する法人に委託している。							
目標指標	指標名	ファミリー・サポート・センターの相互援助活動件数						
	単位	件	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
実績値	6,695	6,682	7,288					
令和元年度実施計画	通常の相互援助活動に加え、妊娠中や出産後の家庭にホームヘルパーを派遣し、家事や育児の援助を行う。また、多子世帯及びひとり親家庭等が事業を利用した場合に利用料の一部を助成する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少 どちら あまり でき し ちらとも りで かなか できた 言えな できな た い かった ない た	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
	評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		



No.	32	事業名	視覚障害者向け広報等発行事業					
部名	福祉部		課名	障がい福祉課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	② 障がいの者の社会参加と自立支援		
	基本施策	3-03	障がい者・児福祉			障がい者があらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的とした啓発、広報等の充実を図るとともに、スポーツ・文化活動の振興を図ります。		
	施策	3-03-01	障がい者・児福祉の充実					
相手方の名称	ボランティア団体			協働事業の実施手法	補助・助成			
実施の時期	通年			事業開始年度	昭和57年度			
令和元年度事業費	予算額	4,066		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	視覚障害者の内、希望者にしみんだよりなどの広報の点字版や音声版を製作し配布する。							
目標指標	指標名	活動の育成						
	単位	ボランティアの人数	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	60	60	60	60	60
実績値	60	60	60					
令和元年度実施計画	市は点訳ボランティア及び音訳ボランティアに総合福祉センターの一室と点字用紙や録音用CD、製作用機材を提供し、ボランティアは市の広報誌等の点字版、音声版を作成、希望する視覚障害者に配布する。また、障害者の地域生活を支援するボランティアを育成する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少 どちらとも でき でき し ちらとも ない なかった できた 言えない なかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
	評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	33	事業名	奈良市総合福祉センターの運営					
部名	福祉部		課名	障がい福祉課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 障がい者があらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的とした啓発、広報等の充実を図るとともに、スポーツ・文化活動の振興を図ります。			
	基本施策	3-03	障がい者・児福祉					
	施策	3-03-01	障がい者・児福祉の充実					
相手方の名称	(社) 奈良市社会福祉協議会		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成22年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	187,639	決算額	(単位：千円)				
事業の概要・目的	障害者のための施策その他社会福祉施策の総合的な推進及び社会福祉活動の育成を図り、もって市民の福祉の増進に資するために設置された総合福祉センターを運営する。							
目標指標	指標名	施設の利用者数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000
実績値	84,859	90,945	89,456					
令和元年度実施計画	障害者福祉及び市民の福祉活動の振興を図り、もって市民の福祉の向上に資するため、奈良市社会福祉協議会を指定管理者として総合福祉センターの施設運営を行う。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目			行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			
評価点					

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	34	事業名	奈良市子ども発達センター					
部名	子ども未来部		課名	子育て相談課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ① 障がい者福祉サービスの充実 <small>発達の遅れや障がいのある子どもと保護者に対し、相談や療育を行うため、子ども発達センターの事業の充実を図るとともに、医療機関や教育機関などと協力して支援の充実に努めます。</small>			
	基本施策	3-03	障がい者・児福祉					
	施策	3-03-01	障がい者・児福祉の充実					
相手方の名称	(社会福祉法人) 宝山寺福祉事業団		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成23年度(指定管理制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	26,520		決算額	(単位: 千円)			
事業の概要・目的	奈良市子ども発達センターで児童発達支援を行う。							
目標指標	指標名	当該年度に児童発達支援を利用した幼児の実数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	60	60	60	60	60
実績値	48	55	48					
令和元年度実施計画	<発達支援> 児童発達支援 <地域支援> ①幼稚園等への訪問による指導 ②事業所支援 ③自主事業(親子教室)(公開療育)							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少 どちらとも あまり でき し ちらとも すぎで なかった できた 言えない なかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						/
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						/
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	35	事業名	認知症サポーター養成講座					
部名	福祉部		課名	福祉政策課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ② 高齢者福祉サービスの充実 <small>認知症の人も介護者も住み慣れた地域で安心して生活できるよう、認知症地域支援推進員や地域包括支援センターと連携を図り、地域全体で認知症の人とその家族を支えるネットワークを構築し、総合的かつ継続的な支援を推進します。</small>			
	基本施策	3-04	高齢者福祉					
	施策	3-04-01	高齢者福祉の充実					
相手方の名称	地域包括支援センター職員を含むキャラバンメイト		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度				
令和元年度事業費	予算額	472		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	国の認知症サポーター100万人キャラバン事業に基づき、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守り、支援する認知症サポーターの養成や、その養成のための講師となるキャラバン・メイトの活動を支援する。							
目標指標	指標名	認知症サポーターを5ヶ年で約12,000名を養成予定、その後継続して実施						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	14,200	16,500	18,900	23,100	17,000
実績値	14,037	17,908	20,807					
令和元年度実施計画	認知症サポーターの更なる養成を行うため、未活動となっているキャラバンメイトが認知症サポーター養成講座の講師役として広く活動できるよう、認知症地域支援推進員や地域包括支援センターと協働し取り組む。また、認知症の人やその家族などが集う場であるオレンジカフェ(認知症カフェ)運営者との協働も含め、養成講座受講後もボランティアとして活躍できる場を提供できるよう支援する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点									

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	36	事業名	老人福祉センターの運営					
部名	福祉部		課名	長寿福祉課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ③ 高齢者福祉施設の整備 老人福祉センターにおける高齢者の各種相談、健康の増進・介護予防の推進、生きがいづくりと社会参加を推進します。			
	基本施策	3-04	高齢者福祉					
	施策	3-04-01	高齢者福祉の充実					
相手方の名称	(福)奈良市社会福祉協議会		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度				
令和元年度事業費	予算額	129,300	決算額	(単位：千円)				
事業の概要・目的	高齢者の心身の健康保持及び増進を図るとともに、地域における交流の場として便宜を供与することによって生きがいづくりに寄与し、もって高齢者の福祉に資するため、東・西・南・北4箇所を老人福祉センターを運営する。							
目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	192,000	194,000	196,000	198,000	200,000
実績値	190,319	182,883	185,302					
令和元年度実施計画	施設の老朽化に伴う故障等により施設の一部が使用不可能となる事態が多発することが予想されるため、迅速な情報共有を行うことで利用者への影響を最小限にとどめ、利用者のニーズを逃さないようにする。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					
評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	37	事業名	奈良市立都祁診療所・月ヶ瀬診療所の運営					
部名	健康医療部		課名	医療政策課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ① 地域医療体制の充実 東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。			
	基本施策	3-05	医療					
	施策	3-05-01	医療の充実					
相手方の名称	公益社団法人 地域医療振興協会		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成22年度(指定管理者制度導入年度)				
平成30年度事業費	予算額	39,800		決算額	39,800 (単位:千円)			
事業の概要・目的	医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス(診療、健康診断、健康相談、予防接種等)を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。 (※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。)							
目標指標	指標名	診療所利用者数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			実績値	18,188	17,467	16,871		
平成30年度取組内容	指定管理者との管理運営協議会を設置し、情報共有を行うことでより良い診療所運営を行う。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 ← ← → → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少 どちらとも あまりで できな し ち とも できな かつた で ち とも できな かつた きた だ とも 言え ない た だ とも 言え ない た だ とも 言え ない	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
	評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		



No.	39	事業名	奈良市立興東診療所の運営					
部名	健康医療部		課名	医療政策課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ① 地域医療体制の充実 東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。			
	基本施策	3-05	医療					
	施策	3-05-01	医療の充実					
相手方の名称	公益社団法人 地域医療振興協会		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成28年度				
平成30年度事業費	予算額	10,000	決算額	10,000	(単位：千円)			
事業の概要・目的	医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス(診療、健康診断、健康相談、予防接種等)を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。 (※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。)							
目標指標	指標名	診療所利用者数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			実績値	322	427	494		
平成30年度取組内容	指定管理者との管理運営協議会を設置し、情報共有を行うことでより良い診療所運営を行う。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少 どちらとも あまりで できな し ちらとも すぎな かった できた 言えない かった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
	評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		



No.	40	事業名	20日ならウォーク					
部名	健康医療部		課名	健康増進課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ② 成人保健事業の推進 <small>運動習慣づくりや食生活改善、禁煙等生活習慣病発症の予防を目的とした健康教育・健康相談など身近な保健サービスを提供し、一人ひとりの健康づくりを支援するほか、市民・民間・行政が一体となって健康づくりに取り組む体制づくりを行います。</small>			
	基本施策	3-06	保健					
	施策	3-06-01	健康づくり推進					
相手方の名称	奈良市運動習慣づくり推進員協議会		協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度				
令和元年度事業費	予算額	240		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	奈良市運動習慣づくり推進員との協働で、毎月20日に市内をウォーキングする。効果的なウォーキング方法の啓発及び運動習慣の定着を支援し、生活習慣病予防につなげる。							
目標指標	指標名	奈良市運動習慣づくり推進員協議会主催実施回数						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	11	11	11	11	11
実績値	10	10	7					
令和元年度実施計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキングイベント(年1回)及び、屋外ウォーキング(年10回)を実施する。</li> <li>・奈良市運動習慣づくり推進員養成講座(隔年実施)を実施する。</li> <li>・奈良市運動習慣づくり推進員協議会と活動計画や評価について検討会議を実施する。</li> </ul>							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点									

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	41	事業名	奈良市総合医療検査センターの運営					
部名	健康医療部		課名	医療政策課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	—		
	基本施策	3-06	保健福祉					
	施策	3-06-01	健康づくりの推進					
相手方の名称	一般社団法人 奈良市医師会		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成28年度(当該指定管理開始年度)				
平成30年度事業費	予算額	4,021		決算額	4,021 (単位: 千円)			
事業の概要・目的	市民の日常の健康増進、疾病の予防及び発見、リハビリテーションまでの包括的な保健医療サービスを効果的に提供するため総合医療検査センターを設置し、人間ドッグ、がん検診及び定期健康診断等の検診事業並びに食事栄養指導、運動指導及び健康講座等の健康増進事業等を実施する。							
目標指標	指標名	センター利用件数						
	単位	件	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	127,500	128,000	140,000	140,000	140,000
実績値	131,806	135,528	137,239					
平成30年度取組内容	市民の健康の保持・増進、疾病の早期発見及び予防の推進のため、検診受診者の拡大を図るとともに検査事業においては精度管理に努める。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少 どちらとも でき でき し ちらとも ない なかった で とも 言 った きた え えな った	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	42	事業名	奈良市食育ネット					
部名	観光経済部		課名	農政課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	—		
	基本施策	3-06	保健福祉					
	施策	3-06-01	健康づくりの推進					
相手方の名称	奈良市食育ネット			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成30年5月(旧事業27年度)			
令和元年度事業費	予算額			決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	食育基本法及び第3次奈良市食育推進計画(平成31年3月策定)に基づき、食に関する団体(ボランティア、大学、食関連事業者、飲食店等)と協働のもと食育を推進する。農政課は事務局を担い、参加団体を市ホームページに掲載する。年に1回協働で食育イベントを開催する。(組織改正により、平成31年4月から事務局が医療政策課から農政課になった)							
目標指標	指標名	奈良市食育ネット参加団体数						
	単位	団体数	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	35	45	50	60	65
実績値	43	48	59					
令和元年度実施計画	10月26日(土)～27日(日)に食育フェスタを食育ネット主催で開催予定。6月22日(土)食育ネット交流会で概要説明を行う。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	43	事業名	森林保全・緑化推進事業					
部名	観光経済部		課名	農政課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	⑤	林業の振興	
	基本施策	6-03	農林業			森林環境の保全及び森林を守り育てる意識を醸成します。		
	施策	6-03-01	農林業の振興					
相手方の名称	奈良市巨樹保存等審議会委員		協働事業の実施手法	審議会・委員会等				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成15年度				
令和元年度事業費	予算額	196		決算額			(単位：千円)	
事業の概要・目的	森林を保護・育成し森林の保全及び緑化推進の市民意識の向上を図る。また、奈良市巨樹の保存及び緑化の推進に関する条例に基づき、巨樹の保存等に努める。							
目標指標	指標名	保存樹指定本数						
	単位	本	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	26	26	27	27	28
実績値	25	25	25					
令和元年度実施計画	巨樹等の指定は平成15年度から開始したが、巨樹等の保存及び緑化の推進は一定の効果が表れており、近年では、新たな指定は少なく、今後の新たな指定については、検討していく。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点									

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	44	事業名	自主防災防犯組織活動					
部名	危機管理監		課名	危機管理課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向 ② 防災意識の高揚 <small>自主防災組織の結成率向上、子育て世代の加入促進など組織強化への支援、防災士の育成支援等、組織体制の充実・活性化に努め、防災意識の高揚を図ります。</small>			
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)					
	施策	4-01-01	総合的な危機管理					
相手方の名称	自主防災防犯組織			協働事業の実施手法	補助・助成			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成18年度			
令和元年度事業費	予算額	18,915		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	各地区の防災防犯力の向上を図り、安全安心な街づくりを推進するため、自主防災防犯組織が行う防災訓練、防犯活動等の各種防災防犯活動を支援する。この際、各地区の自主防災防犯組織の均一的な活性化に留意しつつ、自主防災防犯協議会と合同で防災訓練等を実施するとともに、防災士育成、資機材購入等の防災防犯活動に対して、活動交付金を交付し、自動・共助・公助連携の向上を図る。							
目標指標	指標名	各地区自治連合会等を基本とした自主防災防犯組織の結成率						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	98	100	100	100	100
実績値	100	100	100					
令和元年度実施計画	自主防災防犯組織に自主防災防犯組織活動交付金を交付し、防災訓練、研修会の支援を行い、また、必要に応じて、防災訓練や防災防犯講演会に職員を派遣する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少してきた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					
評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	45	事業名	独り暮らし高齢者世帯防火訪問					
部名	消防局		課名	予防課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	②	防火、防災における市民等との協働の推進	
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)			女性防災クラブとの協働による一般家庭防火訪問(住宅用火災警報器の普及促進と出火防止対策)の実施等防火対策の推進と、自力避難困難者収容施設への査察の強化を図ります。		
	施策	4-01-02	消防・救急救助体制の充実					
相手方の名称	奈良市女性防災クラブ			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度	昭和46年度			
令和元年度事業費	予算額	10		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	火災時に死傷者の発生する割合の高い高齢者世帯に対する防火啓発により住宅火災の防止、被害の減少を図ることを目的とする。 そのために、70歳以上の独り暮らし高齢者世帯を対象に防火訪問を実施する。							
目標指標	指標名	女性防災クラブ員一人当たり訪問回数が増						
	単位	一人当たり訪問回数	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1.3	1.7	1.8	1.9	2.0
実績値	1.6	1.8	2.3					
令和元年度実施計画	各女性防災クラブのクラブ員が、それぞれの地域の独り暮らし高齢者世帯の防火訪問を実施する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しできた どちらとも言えない できなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点									

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	46	事業名	応急手当普及啓発活動事業					
部名	消防局		課名	救急課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向 ② 防火・防災における市民等との協働の推進 市民を対象とした応急手当普及啓発活動を推進します			
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全(防災・消防・防犯・交通安全)					
	施策	4-01-02	消防・救急救助体制の充実					
相手方の名称	市内在住・在勤者		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成6年度				
令和元年度事業費	予算額	649		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	応急手当講習会を受講してもらうことにより、応急手当の必要性を認識していただき、病院前救護の充実を図る。							
目標指標	指標名	市民の4人の1人が応急手当講習修了者となること						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	3,360	3,360	3,593	5,053	5,053
実績値	2,521	2,103	2,161					
令和元年度実施計画	各種事業所・各種団体及び自治会等に対して応急手当講習会の受講を推進し、また、応急手当講習会の広報を継続して行い、各種イベントを通じて応急手当の展示と講習会の広報を実施する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少 どちらとも でき でき し ちらとも ない なか なかった で づらとも 言え かった きた きた えない た	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					
	評価点						

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	47	事業名	市民メディカルラリーの実施					
部名	消防局		課名	消防総務課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向 ② 防火、防災における市民等との協働の推進 <small>行政や地域住民等と消防団が適切な役割分担をしながら相互に連携協力し、地域防災の基盤を確立するとともに、消防団が自主的に推進する事業の強化を図ります。</small>			
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全安心					
	施策	4-01-02	消防・救急救助体制の充実					
相手方の名称	市民メディカルラリー運営委員会		協働事業の実施手法	実行委員会・協議会				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成30年度				
令和元年度事業費	予算額	4,200	決算額	(単位：千円)				
事業の概要・目的	市民メディカルラリーを通じて地域の防災組織及び防災関係団体等との連携を強化し、地域防災力を高めることを目的とする。							
目標指標	指標名	メディカルラリー参加者数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値			450	450	450
実績値			450					
令和元年度実施計画	市民メディカルラリーの参加団体に対し、ファーストエイド・こころのケア・トリアージ・避難所アセスメント等の事前研修を実施し、メディカルラリーでその成果を競う。またメディカルラリー開催後においても、自主防災での訓練、研修等で参加者やスタッフの繋がりを活かしながら、地域防災力の向上を図る。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかけた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					
評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		



No.	48	事業名	放置自転車対策の推進					
部名	環境部		課名	環境政策課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	③	放置自転車対策	
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)			駅周辺の放置自転車の撤去を強化することにより、道路交通の安全と円滑化を図ります。		
	施策	4-01-03	交通安全の確保					
相手方の名称	地元商業施設		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成23年度				
令和元年度事業費	予算額	0		決算額			(単位：千円)	
事業の概要・目的	地元商業施設の方々の協力を得て、自転車等放置禁止区域内における放置自転車の発生を防ぐ。							
目標指標	指標名	市内放置禁止区域内の放置自転車等の減						
	単位	台	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	2,080	2,060	2,040	2,020	2,000
実績値	1,876	1,653	1,173					
令和元年度実施計画	地元商業施設に放置自転車等の情報を提供し、協力して放置自転車等の移動をおこなうとともに自転車等放置禁止区域の周知啓発により放置自転車の発生を防ぐ。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	49	事業名	奈良市自転車駐車場の運営					
部名	環境部		課名	環境政策課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	③	放置自転車対策	
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)			自転車利用者の利便性を高め、道路交通の安全と円滑化を図るため、民間活力を利用し、駅周辺に自転車駐車場を充実させます。		
	施策	4-01-03	交通安全の確保					
相手方の名称	事業者(ミディ総合管理株式会社)		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	67,471		決算額			(単位: 千円)	
事業の概要・目的	市内の駅周辺における自転車等の駐車秩序を確立することにより、街の美観を維持するとともに、自転車利用者の駐車の手便を図る。							
目標指標	指標名	自転車利用者の利便性を高め、道路交通の安全と円滑化を図る						
	単位	台	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	3,360	3,360	3,360	3,360	3,360
実績値	3,360	3,360	3,360					
令和元年度実施計画	指定管理者と連絡調整を行いながら、施設のより良い運営に努める。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	50	事業名	地域防犯活動推進事業					
部名	危機管理監		課名	危機管理課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向 ③ 地域の防犯力の強化 <small>防犯意識の普及及び防犯施策を推進することにより、犯罪や事故等のない明るく住みよい地域社会を推進する。</small>			
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)					
	施策	4-01-04	防犯力の充実					
相手方の名称	奈良／奈良西警察署生活安全課		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成21年度				
令和元年度事業費	予算額	7,739		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	奈良市安全安心まちづくり基本計画に基づき、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、市民が自らの安全は自ら守り、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識を高めるため、市民や自主防犯組織などの団体を対象とした防犯教室を実施する。							
目標指標	指標名	防犯教室実施回数						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	8	11	14	17	20
実績値	8	12	23					
令和元年度実施計画	奈良市安全安心まちづくり基本計画に基づき、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、市民が自らの安全は自ら守り、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識を高めるため、市民や自主防犯組織などの団体を対象とした防犯教室を実施する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しできた どちらとも言えない できなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					
	評価点						

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	51	事業名	奈良市地球温暖化対策地域協議会					
部名	環境部		課名	環境政策課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向 ② 地球温暖化対策の推進 <small>奈良市地球温暖化対策地域協議会等を通じ、市民、事業者、行政等あらゆる主体が協働し、環境教育、エコバッグの普及等3Rの推進や公共交通機関の利用促進及び省エネを実践できる仕組みづくりなど温室効果ガスの排出量を削減し、地球温暖化対策の推進に取り組みます。</small>			
	基本施策	4-02	環境保全					
	施策	4-02-01	環境にやさしい社会の構築					
相手方の名称	市民・NPO・事業者など		協働事業の実施手法	実行委員会・協議会				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成21年度				
令和元年度事業費	予算額	628		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	市民(個人・団体)、NPO、事業者、学識経験者、行政などが対等な立場で和をもって協議を行い、パートナーシップにより地球温暖化対策等の活動を推進し、環境(エコロジー)も経済(エコノミー)も持続可能な社会をめざす。							
目標指標	指標名	環境行事実施回数						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	20	23	25	27	30
実績値	24	24	18					
令和元年度実施計画	温室効果ガス排出削減に向け、市民・市民団体・事業者等と協働し、省エネ(市民の省エネへの取組を支援する)・3R(プラスチックフリーの取組)・公共交通の利用促進、環境学習等の様々な分野で活動を展開する。 その他、主催事業や他団体との連携事業にも取り組んでいく。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少 どちらとも あまりで できな し ちらとも すぎな かった できた 言えない かった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					
	評価点						

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	52	事業名	ECOキッズ！ならの子ども					
部名	環境部		課名	環境政策課・学校教育課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	① 環境保全行動の推進 <small>子どもから大人までそれぞれの発達段階に応じた環境教育を推進することにより、一人ひとりが自発的に気づき、学び、行動する心を育成します。</small>		
	基本施策	4-02	環境保全					
	施策	4-02-01	環境にやさしい社会の構築					
相手方の名称	市民・市民団体等		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成25年度				
令和元年度事業費	予算額	1,143		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	次世代を担う子ども達に環境問題や省エネ・節電などライフスタイルに対する気づきを与え、環境保全を推進する人材を育成するため、市立全小学校3年生を対象に、地球温暖化防止や省エネなどの環境に関する出前授業を行う。							
目標指標	指標名	夏・冬休みに家庭で取り組むエコチャレンジを実施した割合						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	100	100	100	100	100
実績値	92	89	80					
令和元年度実施計画	市立小学校3年生全クラスを対象として、地球温暖化防止や省エネなどの環境に関する出前授業を実施する。カリキュラムについては、これまでに実施した市立小学校からの意見を参考に、推進部会を開催し改善をしていく。出前授業実施後には、定着を図るための振り返りとして、エコライフに関する6つの項目について家庭で取り組むエコチャレンジを夏・冬休みに実施する。夏休み後のフォローアップ講座(2回講座)の実施数の拡大や、新たな講座の導入など事業の充実を図る。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点									

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	53	事業名	アダプトプログラム推進事業「さわやかクリーン奈良」					
部名	市民部		課名	地域づくり推進課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	① 環境美化活動の推進		
	基本施策	4-03	生活・環境衛生			アダプトプログラム推進事業を実施し、地域のボランティアによる道路、河川等の公共施設の美化活動を支援します。		
	施策	4-03-01	環境美化の推進					
相手方の名称	自治会・ボランティア団体・事業者等		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度				
令和元年度事業費	予算額	3,154		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	市民の方々による身近な道路、河川等の公共施設の美化活動を通して地域コミュニティの再生を図る。							
目標指標	指標名	活動団体の増						
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	64	66	83	85	87
実績値	60	81	92					
令和元年度実施計画	ホームページやしみんだより、情報誌「りるぼ」を通して参加団体を募集し、市の支援として、報奨金10,000円、ごみの回収、90Lのごみ袋の提供、ボランティア活動保険への加入を行う。また、報奨金を希望しない団体は、ごみ袋45L及び90Lの支給、ごみの回収、ボランティア活動保険への加入を行う。活動に参加する等して集めた団体の声を基に、手続き方法の改善や活動の推進・拡大を図っていく。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 ← ← → → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少 どちらとも でき でき し ちらとも ない なかった できた 言えない なかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							/
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							/
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点									

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	54	事業名	佐保川清掃					
部名	環境部		課名	まち美化推進課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	① 環境美化活動の推進		
	基本施策	4-03	生活・環境衛生			アダプトプログラム推進事業を実施し、地域のボランティアによる道路、河川等の公共施設の美化活動を支援します。		
	施策	4-03-01	環境美化の推進					
相手方の名称	佐保川清掃対策委員会			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	春			事業開始年度	昭和34年			
令和元年度事業費	予算額	0		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	地域住民の方々のボランティア活動により佐保川の美化活動を行う。							
目標指標	指標名	美化活動への参加人数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1,500	1,500	1,500	1,550	1,550
実績値	1,200	1,200	1,200					
令和元年度実施計画	地域住民のボランティア活動による佐保川の美化活動を推進するため、前年に引き続きごみの収集・運搬処理の支援を行う。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	55	事業名	人と動物がともに暮らせるまちづくり事業					
部名	健康医療部		課名	保健衛生課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	②	人と動物がともに暮らせるまちづくり事業	
	基本施策	4-03	生活・環境			狂犬病に対する認識や動物愛護の意識の高揚に努めるとともに動物の正しい飼い方を啓発し、人と動物が良きパートナーとして共に暮らせるまちづくりを推進する		
	施策	4-03-02	生活・環境環境衛生の向上と増進					
相手方の名称	自治会		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成15年度				
令和元年度事業費	予算額	59		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	自治会を通じて動物の適切な飼い方に関するポスターを配布し掲示してもらうとともに、地域住民との意見交換を行い、良い意見を反映させていくことで、飼い主のマナー啓発に努める							
目標指標	指標名	ポスター配布枚数						
	単位	枚	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	800	800	800	800	800
実績値	451	575	491					
令和元年度実施計画	動物の飼い方に関する苦情・相談を集約・整理しながら、市の各自治会と連携し、動物の適切な飼い方についてのポスターを配布する。そのうえで、動物に関する迷惑行為防止の取り組みについて意見交換を行い、有効な取り組みについては市全体に発信するなど、人と動物がともに暮らせるまちづくりを推進する取り組みを自治会と協議で構築する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点									

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		



No.	56	事業名	環境フェスティバル、ならグリーンフェスタ					
部名	環境部		課名	廃棄物対策課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	① ごみ減量・リサイクルの推進 <small>ごみの2R施策に重点を置いた啓発活動として、各種市民団体と連携・協議した広報及び啓発活動を展開し、家庭系ごみの減量を図ります。また、ごみの排出事業者等に対し、関係法令に則った指導・啓発を強化し、不適正なごみの搬入を抑制することにより、事業系ごみの減量を図ります。</small>		
	基本施策	4-04	廃棄物処理					
	施策	4-04-01	一般廃棄物の処理					
相手方の名称	奈良市ごみ懇談会			協働事業の実施手法	共催			
実施の時期	年1回			事業開始年度	平成6年度			
令和元年度事業費	予算額	174		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	全国的に制定されている3R(スリーアール)推進月間などの時期に、本市の取組として廃棄物に関する問題意識の高揚とごみ減量・リサイクル促進の必要性を訴えるため、啓発活動の一環として開催する。							
目標指標	指標名	イベントへの参加者数の増加						
	単位	人/回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	6,000人/2回	6,000人/2回	6,000人/2回	3,000人/1回	3,000人/1回
実績値	3,000人/1回	3,000人/1回	6,000人/2回					
令和元年度実施計画	しみんだより及びホームページ等を用いてフリーマーケット出店者を公募し応募者から抽選を行い決定する。市民団体には準備段階から関わっていただく。イベント当日は当選した市民へフリーマーケットのスペースを提供し、市民団体には各々の特性を生かした3Rへの啓発を展開する。また、奈良市手をつなぐ親の会においては、会場にてリサイクル自転車等の販売を行う。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点									

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	57	事業名	ごみ減量キャラバン					
部名	環境部		課名	廃棄物対策課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向 ① ごみ減量・リサイクルの推進 <small>ごみの2R施策に重点を置いた啓発活動として、各種市民団体と連携・協議した広報及び啓発活動を展開し、家庭系ごみの減量を図ります。また、ごみの排出事業者等に対し、関係法令に則った指導・啓発を強化し、不適正なごみの搬入を抑制することにより、事業系ごみの減量を図ります。</small>			
	基本施策	4-04	廃棄物処理					
	施策	4-04-01	一般廃棄物の処理					
相手方の名称	ごみ懇談会等		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成24年度				
令和元年度事業費	予算額	136		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	啓発活動により、より多くの市民に、廃棄物の課題を認識していただき、ごみの減量及び3Rの促進に取り組んでいただく。							
目標指標	指標名	キャラバンの参加者数の増加						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	600	600	600	600	600
実績値	396	570	292					
令和元年度実施計画	奈良市内の公民館や自治会を回り、ごみの分別・減量や3Rの実践活動の広報する講演会を開催する。また、小学校や子ども園向けの内容も作成し、要望を受けて出前講座を実施する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					
評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	58	事業名	陶磁器製食器類リユース・リサイクル事業					
部名	環境部		課名	環境政策課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	① ごみ減量・リサイクルの促進 <small>ごみの2R施策に重点を置いた啓発活動として、各種市民団体等と連携・協働した広報及び啓発活動を展開し、家庭系ごみの減量を図ります。また、ごみの排出事業者等に対し、関係法令に則った指導・啓発を強化し、不適正なごみの搬入を抑制することにより、事業系ごみの減量を図ります。</small>		
	基本施策	4-04	廃棄物処理					
	施策	4-04-01	一般廃棄物の処理					
相手方の名称	関西ワンディッシュユエイド協会			協働事業の実施手法	委託			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成27年度			
令和元年度事業費	予算額	3,217		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	定期回収拠点(コープおしくま、コープ七条、はぐくみセンター)や奈良市の主催イベント等にて、家庭で不用になった陶磁器製食器類を持ち込んでいただき回収するとともに、持ち帰りたい食器があれば配布する「もったいない陶器市」を開催する。本事業を通じて、ごみの2R(発生抑制、再使用)を促進し、ごみに対する意識の高揚を図る。							
目標指標	指標名	陶磁器製食器のリユース率						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	58	59	62	63	64
実績値	61	61	61					
令和元年度実施計画	今年度はコープおしくま、コープ七条、はぐくみセンターの3箇所を拠点とし、各拠点で月1回ずつ定期開催を行う。これに加え、奈良市役所での休日開催と市主催のイベント等においても開催するとともに、リユース市の開催の検討も行っていく。なお、各場所での開催状況を踏まえ、より効果的な開催場所への変更・拡大を適宜検討する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点									

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	59	事業名	なら・まちかど景観発掘隊					
部名	都市整備部		課名	都市計画課				
総合計画上の位置付け	章	5章	都市基盤		展開方向	④ 協働による景観まちづくり <small>地域の貴重な景観資源を発掘し、それを市民一人ひとりが活用できる景観施策を推進します。</small>		
	基本施策	5-02	景観					
	施策	1-02-01	奈良らしい景観の形成					
相手方の名称	自治会・ボランティア団体			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成22年度			
令和元年度事業費	予算額	329		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	自治会やボランティア団体と市との協働により、なら・まちかど景観発掘隊と題し一般の方々を募り、街歩き計画を立て、街歩きを通じて私たちの住む街角にある、ちょっとした素晴らしい景観スポットを発掘する。これを景観資源として蓄積し、観光や街の活性化につなげていく。							
目標指標	指標名	活動団体数の増						
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	2	2	3	2	2
実績値	1	1	1					
令和元年度実施計画	地域団体の方々和市との協働により、なら・まちかど景観発掘隊と題し一般の方々を募集し、街歩きを案内する。その中で景観スポットを発掘するワークショップを行い、地域の景観資源として蓄積し、観光や街の活性化につなげていく。また、その成果を周知することにより、活動団体の増加を図る。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少 どちらとも でき でき し ちらとも ない なかった できた 言えない なかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
	評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	60	事業名	違反広告物を出さない街づくり推進団体					
部名	都市整備部		課名	都市計画課				
総合計画上の位置付け	章	5章	都市基盤		展開方向	④ 協働による景観まちづくり		
	基本施策	5-02	景観			景観まちづくり市民組織の結成、育成を支援するとともに、各組織のネットワーク化を図ります。		
	施策	1-02-01	奈良らしい景観の形成					
相手方の名称	自治会・2名以上のボランティア団体		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成16年度				
令和元年度事業費	予算額	88		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	古都奈良にふさわしい景観となるよう、道路などに掲出された違法な簡易広告物を市民の方々に除却していただき、その活動を通じて地域の景観を守る意識を高めていただく。							
目標指標	指標名	活動団体数の増加						
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	38	46	54	58	60
実績値	43	47	49					
令和元年度実施計画	しみんだよりや市ホームページによる広報に加え、関係団体にも積極的に働きかけ、活動団体数の増加を図る。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少 どちらとも できな でき し ち とも 言え かった で ち ら とも 言え かった きた だ とも 言え ない た	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
	評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	61	事業名	グリーンサポート制度					
部名	市民部		課名	地域づくり推進課				
総合計画上の位置付け	章	第5章	都市基盤		展開方向 ① 公園・緑地の管理や運営の多様化 <small>公園ボランティア制度やグリーンサポート制度などを活用し、市民等との協働による公園・緑地の管理運営を推進します。</small>			
	基本施策	5-06	公園・緑地					
	施策	5-06-01	公園・緑地の整備					
相手方の名称	自治会等地域の団体		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度				
令和元年度事業費	予算額	13,736		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	市民が公園を快適かつ安全に利用できるようにするとともに、市民の自主的な活動の推進を図る。							
目標指標	指標名	グリーンサポート制度による公園管理率						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	32	34	36	38	40
実績値	28	31	33					
令和元年度実施計画	情報紙「りろば」の発行やしみんだより、ホームページの広報活動等により市民への周知に努め、団体数の増加を図る。また、活動に参加する等して集めた団体の声を基に、手続き方法の改善や公園維持管理活動の推進・拡大を図っていく。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	62	事業名	なら燈花会開催事業					
部名	観光経済部		課名	観光戦略課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	特定非営利活動法人 なら燈花会の会		協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	8月5日～14日		事業開始年度	平成11年度				
令和元年度事業費	予算額	10,000		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	観光閑散期の奈良の夏に多くの観光客を呼び込むため、奈良公園内の7カ所の会場で毎夜約300人を超えるボランティアの人力によって20,000個のろうそくを灯し、歴史的建造物等のライトアップを含めた夏の祭典として、なら燈花会を開催する。							
目標指標	指標名	期間中の来訪者						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
実績値	911,000	975,000	951,000					
令和元年度取組内容	しみんだより・観光パンフレット・ホームページ、公共施設へのチラシ・ポスター設置等を通じ、ボランティア募集を積極的に展開する。また、「なら燈花会支援会議」に参画し、関係団体と一体になったPR活動に努める。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点									

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	63	事業名	ガイド付きツアー					
部名	観光経済部		課名	観光戦略課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	② 観光客受入体制の充実		
	基本施策	6-01	観光			着地型観光(目的地である着地側で企画する観光)の内容の充実と、広報の強化に努めます。		
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	なら・観光ボランティアの会		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	7月・8月・12月・1月を除く通年		事業開始年度	平成22年度				
令和元年度事業費	予算額	200		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	観光ボランティアガイドの解説のもと、観光客の皆様は歴史の残る奈良を歩いて、学び、楽しんでもらう。							
目標指標	指標名	ガイドツアー参加者(集客)の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
実績値	638	601	897					
令和元年度取組内容	観光ボランティアガイドの解説のもと、観光客の皆様は歴史の残る奈良を歩いて、学び、楽しんでもらう。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少 どちらとも あまりで できな し ちらとも できな かった できた 言えない た	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
	評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		



No.	64	事業名	しあわせ回廊～なら瑠璃絵～開催事業					
部名	観光経済部		課名	観光戦略課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光			オフシーズンである冬の時期に「珠光茶会」や「しあわせ回廊なら瑠璃絵」を開催し、1年を通じて観光客が訪れる観光資源を育てます。		
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	なら瑠璃絵実行委員会		協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	2月8日～2月14日		事業開始年度	平成21年度				
令和元年度事業費	予算額	8,000		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	春日大社本殿、東大寺大仏殿、興福寺東金堂の夜間拝観の実施や、奈良国立博物館の夜間開館、三社寺をつなぐ奈良公園内におけるLEDライト等によるあかりの演出などを行う。							
目標指標	指標名	期間中の来訪者						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
実績値	386,000	369,000	412,000					
令和元年度取組内容	しみんだより・観光パンフレット・ホームページ等を通じ、PRを積極的に展開する。また、「なら瑠璃絵推進委員会」に参画し、関係団体と一体になったPR活動に努める。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点									

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	65	事業名	バサラ祭り開催事業					
部名	観光経済部		課名	観光戦略課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向			
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	特定非営利活動法人 バサラ衆		協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	8月末		事業開始年度	平成10年度				
令和元年度事業費	予算額	1,500		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	「バサラ祭り」は市民参加型の祭りであり、それぞれ工夫を凝らしたコスチュームを着たダンスチームが各会場を踊りながらパレードを行うものであり、奈良の夏の顔の一つとして実施する。							
目標指標	指標名	期間中の来訪者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
実績値	27,000	30,000	32,700					
令和元年度取組内容	来訪者を増やすため、事業実施について協議し、実行委員会と共に、ポスター・チラシ、観光ウインドー等で広報活動を行う。また円滑な運営のため、開催期間中は参加車両の駐車場等で協力する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。		
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。		
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。		
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。		
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。		
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。		
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。		
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。		
評価点				

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	66	事業名	月ヶ瀬梅林周遊道路整備					
部名	建設部		課名	道路建設課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光			梅林周遊道路の整備を行い、観光ネットワークのひとつとしての環境整備を図ります。		
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	梅林周遊道路改修委員会		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成17年度				
令和元年度事業費	継続	50,000	決算額	(単位：千円)				
事業の概要・目的	地元自治会選出の代表メンバーとして設置された「梅林周遊道路改修委員会」と調整及び協議を図りながら、名勝「月ヶ瀬梅林」を周遊する道路を整備し、地域住民の利便性を向上させるとともに、観光客の安全と地域観光の活性化を図る。							
目標指標	指標名	道路の整備延長 L=1280m						
	単位	m	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	100	100	100	100	106
実績値	88	0	140					
令和元年度実施計画	本年度については、残っている全ての用地取得手続きを完了し、併せて終点付近までの整備を実施予定。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	67	事業名	転害門前観光駐車場の運営					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実 <small>歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。</small>		
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	ミディ総合管理株式会社			協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)			
令和元年度事業費	予算額	2,948		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	観光客及び市民の駐車場の便宜を図るために駐車場を設置し、指定管理者制度にて運営管理を行う。							
目標指標	指標名	駐車利用台数の増						
	単位	台	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	5,400	5,500	6,724	6,900	7,000
実績値	5,970	6,625	7,297					
令和元年度実施計画	月報の報告時など指定管理者と定期的に情報共有を行うとともに、たびたび現地への訪問も行う。施設の安全性、利便性の向上及び利用促進並びに経費節減に努め、利用者に喜んでいただける駐車場にするための管理運営を行う。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点									

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	68	事業名	奈良市ならまち格子の家					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ① 観光資源・施設の整備・充実 <small>伝統芸能や工芸など体感・体験できる体制を整えます。</small>			
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	ならまち格子の家指定管理者コンソーシアム		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	4,208		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	ならまちの伝統的な町家を再現し、観光客及び市民の観覧と利便に供するとともに、町並み保全に資するために格子の家を運営する。							
目標指標	指標名	入館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	100,000	105,000	100,000	115,000	120,000
実績値	100,390	95,383	85,152					
令和元年度実施計画	指定管理者と定期的に情報共有を行うことで、より良い施設運営を行う。また、奈良市から積極的に観光情報を提供し、地元の方と、地域に根差したより良い観光案内を行うとともに、指定管理者による自主事業の充実を図る。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目			行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかけた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			
評価点					

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	69	事業名	奈良町からくりおもちゃ館					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実 <small>伝統芸能や工芸など体感・体験できる体制を整えます。</small>		
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	特定非営利活動法人からくりおもちゃ塾奈良町		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成24年度				
令和元年度事業費	予算額	7,020		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	明治初期の雰囲気が残る町家の空間のなかで、からくりおもちゃを介して、訪れていただいたお年寄りや子どもたち、観光客などの世代間交流や地域間交流の場として活用することにより、ならまちの活性化及び奈良市の観光振興の拠点とするために奈良町からくりおもちゃ館を運営する。							
目標指標	指標名	入館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	52,000	52,500	50,000	51,000	52,000
実績値	46,227	40,972	37,625					
令和元年度実施計画	地元の方と、地域に根差したより良い観光案内を行うとともに、指定管理者による自主事業の充実を図る。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	70	事業名	旧鍋屋交番きたまち案内所					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ① 観光資源・施設の整備・充実 <small>歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。</small>			
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”のまちづくりを考える会		協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成24年度				
令和元年度事業費	予算額	210		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	奈良町のきたまち地域を訪れる観光客の利便を図るとともに、地域の活性化による観光振興に寄与することを目的として、まちかど観光案内所を設置する。							
目標指標	指標名	来館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	10,000	10,500	6,000	6,500	7,000
実績値	5,999	4,716	4,814					
令和元年度実施計画	案内所の運営にあたっては、委託先適宜情報交換や協議の場を設けながら実施する。また、きたまち活性化イベントを共同で開催し、きたまち地域の魅力を発信し、施設の認知度を高める。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかけた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					
評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	71	事業名	史跡・名勝をめぐるウェルカムサービス～知って奈良とびらガイド～					
部名	観光経済部		課名	観光戦略課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	② 観光客受け入れ体制の充実		
	基本施策	6-01	観光			事業者・市民が奈良の歴史・文化を学び、奈良の魅力の理解の下、もてなしの心の醸成により、来訪者への充実したサービスの提供を図ります。		
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	なら・観光ボランティアガイドの会		協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成25年度				
令和元年度事業費	予算額	100		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	奈良市へ転入の届け出を行った世帯に、無料でなら・観光ボランティアガイドの会による観光案内を行う。							
目標指標	指標名	期間中の来訪者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	50	50	50	50	50
実績値	11	10	3					
令和元年度取組内容	転入届出窓口等で、積極的なPR活動に努める。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						/	/
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						/	/
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点							0	0	

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					#N/A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		



No.	72	事業名	奈良市きたまち転害門観光案内所運営事業					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実 <small>歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。</small>		
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	転害門前旧銀行跡建物活用協議会		協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成25年度				
令和元年度事業費	予算額	1,680		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	旧南都銀行手貝支店である奈良市所有の町家を改修し地域の団体と協働して、きたまちの観光客に対する観光案内や、観光資源の発掘及び調査研究、地域活性化の拠点などとして多目的に利用できる観光案内所として運営する。							
目標指標	指標名	来館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	10,000	10,500	10,000	10,100	10,200
実績値	9,353	8,103	7,381					
令和元年度実施計画	案内所の運営にあたっては、委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施する。また、きたまち活性化イベントを共同で開催し、きたまち地域の魅力を発信し、施設の認知度を高める。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						
評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	73	事業名	奈良町南観光案内所運営管理					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ① 観光資源・施設の整備・充実 <small>歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。</small>			
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	有限会社くるみの木		協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成27年度				
令和元年度事業費	予算額	28,343		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	案内所の運営にあたっては、委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施し、奈良町の魅力を国内外に発信しながら、奈良町南観光案内所への誘客を促進する。また、駐車場の運営にあたっては、施設の安全性や利便性の向上に努めながら、案内所と一体的な活用を行う。							
目標指標	指標名	来館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	50,000	50,500	51,000	51,500	52,000
実績値	30,522	31,855	24,611					
令和元年度実施計画	案内所の運営にあたっては、委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施し、奈良町の魅力を国内外に発信しながら、奈良町南観光案内所への誘客を促進する。また、駐車場の運営にあたっては、施設の安全性や利便性の向上に努めながら、案内所と一体的な活用を行う。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					
評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	74	事業名	奈良町にぎわいの家運営管理					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ① 観光資源・施設の整備・充実 <small>昔ながらの暮らしや伝統文化が体感・体験できる体制を整えます。</small>			
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	奈良町にぎわいの家管理共同体		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成27年度				
令和元年度事業費	予算額	16,673		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	奈良町を訪れる観光客、奈良町に暮らす住民、奈良にゆかりを持つ多くの人々が集う、奈良町に息づく歴史文化の発信拠点、にぎわい創出の拠点とするために奈良町にぎわいの家を運営する。							
目標指標	指標名	来館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	100,000	105,000	97,500	98,500	100,000
実績値	96,018	93,247	93,006					
令和元年度実施計画	指定管理者と定期的に情報共有を行うことで、より良い施設運営を行う。また、奈良市から積極的に観光情報を提供し、地元の方と、地域に根差したより良い観光案内を行うとともに、指定管理者による自主事業の充実を図る。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかけた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。		
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。		
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。		
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。		
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。		
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。		
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。		
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。		
評価点				

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	75	事業名	奈良市京終駅観光案内所					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ① 観光資源・施設の整備・充実 <small>歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。</small>			
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	特定非営利活動法人 京終		協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成30年度				
令和元年度事業費	予算額	2,121		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	「駅機能」に魅力ある空間の演出を施すとともに、集客や、賑わいを創出する「観光案内機能」と「コミュニティ機能」を付加する事により、訪れる人々と、地域に暮らす人々が交わることで、賑わいが創出される拠点としての場作りを目指す。							
目標指標	指標名	来館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	-	-	500	12,000	12,000
実績値	-	-	489					
令和元年度実施計画	案内所の運営にあたっては、委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施し、奈良町の魅力を国内外に発信するとともに、地域の活性化に繋がる場としての役割を目指す。また、トイレ及び駐輪場の運営にあたっては、施設の安全性や利便性の向上に努めながら、案内所と一体的な活用を行う。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかけた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					
	評価点						

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	76	事業名	奈良工芸フェスティバル					
部名	観光経済部		課名	産業政策課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ③ 産業の支援と地域経済の活性化 <small>奈良の伝統工芸と伝統産業の継承・発展のため、制作体験やイベント、インターネットを通じて情報発信を行い、工芸品等の販路拡大に努めます。また、緊急の課題である伝統工芸の後継者問題については、研修制度等により育成を支援します。</small>			
	基本施策	6-04	商工・サービス業					
	施策	6-04-01	商工・サービス業の振興					
相手方の名称	工芸作家		協働事業の実施手法	共催				
実施の時期	年1回		事業開始年度	平成元年度				
令和元年度事業費	予算額	472		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	毎年、秋期の正倉院展期間中に合わせて、なら工芸館では「奈良工芸フェスティバル」を開催し、一刀彫・赤膚焼等の工芸作品の特別展示、制作実演・体験などを通じて、奈良工芸に対する理解と認識を深める。また工芸品を期間中、特別販売することで工芸の振興発展に努める。							
目標指標	指標名	来場者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	6,300	6,350	6,400	6,450	6,500
実績値	5,453	5,515	5,774					
令和元年度実施計画	これまでの催しの改善点などを工芸フェスティバル実行委員会と市職員との間で共有し、令和初の工芸フェスティバルにふさわしい充実した内容にする。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しできた どちらとも言えない できなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					
評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	77	事業名	「奈良しみんだより」の英訳					
部名	総合政策部		課名	秘書広報課				
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進		展開方向 ① 市政情報の提供 <small>市政情報入手についての市民ニーズの把握に努めるとともに、しみんだよりやホームページなど多様な広報手段を利用し、それぞれの特色を生かして連携することで、有効な情報発信を行います。</small>			
	基本施策	7-01	市政情報の発信・共有					
	施策	7-01-01	開かれた市政の推進					
相手方の名称	奈良S.G.Gクラブ		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	毎月		事業開始年度	-				
令和元年度事業費	予算額	120		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	日本語が分からない外国籍市民等に市政情報をお知らせする。							
目標指標	指標名	配置部数						
	単位	部/月	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	190	190	200	200	200
実績値	198	195	195					
令和元年度実施計画	行政は「奈良しみんだより」の掲載情報・資料を提供する。また印刷用紙を支給する。完成した英語版しみんだよりのPDFを市ホームページに掲載する。 活動団体は「奈良しみんだより」の英訳、英語版の印刷・編綴、各施設への配置、PDFでの市への提供を行う。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 ←   ←   →   →   1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少 どちらとも でき でき し ちらとも ない なか なかった で 言え ない った きた	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
	評価点								

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	78	事業名	まちづくり振興事業「月ヶ瀬地域振興協議会」					
部名	市民部	課名	月ヶ瀬行政センター 地域振興課					
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進		展開方向 ② 市政に対する提言、要望等の反映 <small>「新市建設計画」を着実に実施し、月ヶ瀬地域振興協議会の活動を通じて、市政に対する提言、要望等をまちづくりに反映させます。</small>			
	基本施策	7-01	市政情報の発信・共有					
	施策	7-01-01	開かれた市政の推進					
相手方の名称	各種団体・自治会等		協働事業の実施手法	実行委員会・協議会				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成17年度				
令和元年度事業費	予算額	1,700	決算額	(単位：千円)				
事業の概要・目的	月ヶ瀬地域における将来のまちづくりについて協議を行うほか、地域の振興等を図り、もって奈良市の発展に資する。							
目標指標	指標名	会議の開催回数						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	24	24	24	24	24
実績値	13	14	14					
令和元年度実施計画	行政として、イベント補助金に交付、市・県等関係課及び機関等への連絡調整、協議会事務局として支援を行う。活動団体としては、地域のまちづくりに関することや新市建設計画に伴う要望活動、進捗状況に関するものの会議の開催、地域伝統文化の保存及び振興に関するもの、地域イベント等の企画及び実施に関するもの(夏まつり、スポーツフェスティバル、体育祭、マラソン大会)等を行う。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点									

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	79	事業名	都祁まちづくり協議会					
部名	市民部		課名	都祁行政センター地域振興課				
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進		展開方向	②	市政に対する提言、要望等の反映	
	基本施策	7-01	市政情報の発信・共有			<small>新市建設計画を推進するため、都祁まちづくり協議会の活動を通じて、市政に対する提言、要望等をならづくりに反映させます。</small>		
	施策	7-01-01	開かれた市政の推進					
相手方の名称	地域住民(都祁まちづくり協議会)		協働事業の実施手法		補助・助成			
実施の時期	通年		事業開始年度		平成17年度			
令和元年度事業費	予算額	3,500		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	1. 住民要望の取りまとめ及び新市建設計画の進捗に関する事。2. 地域間交流事業(農業体験交流事業)3. 地域振興事業(都祁高原マラソン大会)							
目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1,600	1,620	1,640	1,660	1,680
実績値	1,487	1,596	1,577					
令和元年度実施計画	都祁地域の自治会・自治連合会へ協力を呼びかけ、住民要望の取りまとめを行う。地域交流事業として、農業体験交流事業を実施、4月に参加者を募集し、5月から茶摘体験、スズラン・ホタル自由観賞、ブルーベリー採り、収穫体験、吊るし柿・しめ縄作り体験と1年をとおして農業体験をしてもらい地域間交流を図る。まちづくり活動においても地域振興事業の一環として市内外からの参観者を迎え11月に都祁高原マラソン大会を実施予定。都祁の名を全国各地に発信し地域活性化に繋げていく。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点									

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		



No.	80	事業名	地域ミーティング					
部名	市民部		課名	地域づくり推進課				
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進		展開方向 ① 市民参画及び協働の推進 <small>市長が地域に向いて地域活動に取り組む各種団体と対話を行い、地域の課題に対する認識を共有し、協働して解決に向けて考える場として、「地域ミーティング」を開催し、地域と行政が協働して、住みよいまちづくりの実現のために取り組みます。</small>			
	基本施策	7-02	市民参画・協働					
	施策	7-02-01	市民との協働による市政運営					
相手方の名称	奈良市自治連合会		協働事業の実施手法	共催				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成25年度				
令和元年度事業費	予算額	0		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	市長が直接地域に出向き、地域活動に取り組む各種団体の役員と対話を行う中で、地域課題に対する認識を共有し、地域・行政が協働して解決に向けて考えていくことを目的に、平成25年10月から「地域ミーティング」を実施。平成30年11月からは、より多くの地区で実施できるよう、中学校区単位で実施している。 (平成29年12月～平成30年7月は、奈良市自治連合会のブロックを単位として、市長が地域を訪れ、地区の主要四団体の役員との対話を通して情報共有と一層のパートナーシップの強化を図ることを目的に「地域の未来についての懇談会」として開催)							
目標指標	指標名	開催地区数						
	単位	地区 (H31～は中学校区)	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値	30	35	40	15	17	
令和元年度実施計画	中学校区ごとに開催調整を行い、順次地域ミーティングを実施していく。なお、開催にあたっては、各連合会から事前にテーマを提出してもらい、当日、そのテーマに沿って説明、討論を行う。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					
評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	81	事業名	HUG <sup>2</sup> (はぐはぐ)祭り					
部名	市民部		課名	地域づくり推進課				
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進		展開方向 ① 市民参画及び協働の推進 <small>市民参画と協働によるまちづくりを総合的・計画的に推進するために、本市で実施し、又はこれから実施しようとする協働事業を実施計画として策定した「奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画」に基づき、市民参画と協働を進めていきます。</small>			
	基本施策	7-02	市民参画・協働					
	施策	7-02-01	市民との協働による市政運営					
相手方の名称	市民公益活動団体		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	5月～12月		事業開始年度	平成26年度				
令和元年度事業費	予算額	49		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	市民に、ボランティアや市民公益活動団体の様々な活動について知っていただくとともに、その魅力を伝え、ともに活動したり支援したりするきっかけをつくり出すこと、また市民公益活動団体の情報交換や交流の機会創出を目的に、ボランティアインフォメーションセンターにおいて、HUG <sup>2</sup> (はぐはぐ)祭りを開催する。							
目標指標	指標名	HUG <sup>2</sup> 祭り参加者数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	660	695	760	780	800
実績値	770	744	1,146					
令和元年度実施計画	HUG <sup>2</sup> (はぐはぐ)のサポーター団体を募集し、5月よりサポーターズ会議を月に1回開催し、市民公益活動団体と職員で協議を重ねていく。企画の段階から準備、祭り当日の運営及び進行も市民公益活動団体と職員と協働で行い開催する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目			行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			/
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			/
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			
評価点					

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	82	事業名	租税教室の開催(講師の派遣)					
部名	総務部		課名	市民税課				
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進		展開方向 ① 健全な財政運営 <small>財源確保への取組を強化し、財政基盤の安定化を図ります。</small>			
	基本施策	7-04	行財政運営					
	施策	7-04-01	効率的な行財政運営					
相手方の名称	奈良税務署管内租税教育推進協議会		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	11月～1月頃		事業開始年度	平成20年度				
令和元年度事業費	予算額	0		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	国、奈良県、県内市町村、学校教育機関及び関係民間団体等で組織する奈良県租税教育推進連絡協議会事業の一環として、奈良税務署管内租税教育推進協議会が開催する租税教室に職員を講師として派遣する。							
目標指標	指標名	市職員の講師派遣を継続して行う						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1	1	3	3	3
実績値	2	3	4					
令和元年度実施計画	講師の派遣を希望する小・中学校、高等学校、専修学校と調整しながら、派遣職員の育成を行い、事業を実施する。							
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由							



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					
評価点							

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		